





手紙を出すことに決まった。

手紙の内容は「すぐ寮へ戻れ。戻らない場合は退部にする」というものだった。この手紙を読んだ三年生は、それぞれに話し合ったようで、数日後、全員寮に帰ってきた。

しかし、この事件後、剣道部は、まったくまとまりのない状態になった。稽古にも気合が入らず、ひどい状態だった。剣道の稽古は、剣を交えての人と人の対話であり、相手を尊重し、心を通わせて稽古を行わなければ駄目である。この年は強い選手がたくさんいたが、当然のことながら大会での成績は振るわなかった。

当時は、全国的に学園紛争が最も激しい時代であり、他の運動部もやはりトラブルが絶えなかった。

この事件を通して学んだことは、いかに人間の「和」が大事であるか、その上で、指導陣、部員が一丸となって、目標に向かって努力することができるか、であった。

事件後、剣道部は改めて大学日本一を目標に掲げ、日夜稽古に精を出した。ところが、また新たな問題が派生した。選手候補を中心とした稽古内容に対して、選手候補以外の学生から不満が出てきたのである。当時は、大学の民主化運動が流行し、すべての面で民主的な運営が叫ばれた。指導陣も大学日本一を目指しての指導方針になっており、選手候補に選ばれなかった者に

